

カー
ルズ
バー

梗概

大学生の若田部(19)は彼女いない歴19年。

友人からの勧めで彼女を作るべくガールズバーへ足を運ぶも、そこはガールズバーならぬカールおじさんに扮したおっさんたちがキャストを務める「カールズバー」だった。

戸惑う若田部だったが、強引に店の中に案内される形でコンポタージュ(50)の接客を受ける。

野心家のコンポタージュはナンバーワンの座を狙っており、持ち前の話術によって若田部から金を吸い上げる。

父親を知らずに育った若田部は皮肉にもコンポタージュに熱をあげ、以後、足繁くカールズバーに通い出す。

若田部はコインポタージュから男らしさを学んだことで異性からモテはじめる。一方でコインポタージュもまた若田部のおかげでナンバーワンの座につく。

そんな中、コインポタージュのヘルプ役であるグリルドソーセージ(52)が店の金をもつて姿をくらます。

責任を押しつけられたコインポタージュは期限までに金を店に戻さなければナンバーワンの座から転落するという危機を迎える。

それを知った若田部はコインポタージュのために借金までするが、情け容赦のないコインポタージュの搾取は若田部の母の金にまで及び、ついに若田部は反発する。

大雨の中のアフター。コインポタージュのナ

ナンバーワンへの執念と、コーンポタージュを父親のように慕っていた若田部の思いとがぶつかり、二人は殴り合いの喧嘩を始める。

若田部はコーンポタージュを倒し、母の金を守ったことで勝つことの意味の大きさに気づく。一方でコーンポタージュは負けを認め、潔くナンバーワンを諦める。

数日後。カールズバーに訪れた若田部はコーンポタージュへ「彼女ができた」と報告する。

恩讐の彼方で若田部はコーンポタージュヘッドンペリならぬ松茸を振る舞い、店内に松茸コールが響きわたるのだった。

《登場人物》

若田部 (19) 大学生

コインポタージュ (50) カールズバーのキ
ヤスト

チーズ (49) カールズバーのキャスト

チヨロヘイ (28) カールズバーのボーイ

グリルドソーセージ (52) カールズバーの

キャスト

堀 (40) カールズバーのオーナー

ゆら (18) アルバイト

敏子 (50) 若田の母

浜名 (20) 若田部の友人

瑠璃 (20) 浜名の彼女

定食屋の主人

定食屋の娘

○繁華街（夜）

サラリーマンや若者が歩いている。

客引きが立っている。

若田部（19）、ひとり不安そうに歩いている。

○（回想）コンビニ・休憩室

制服姿の若田部と浜名（20）、椅子に座っている。

若田部「ガールズバー？」

浜名「お前の場合、まずは女の免疫をつけることが先決だ」

若田部「∴」

浜名「ほしんだろ？ 彼女」

若田部「∴うん」

浜名「なら女に慣れることだ。お前は顔は悪くない。運よきゃガールズバーで彼女ができるかもしれない」

若田部「∴じゃあ、一緒にいこうよ。一人じゃよくわかんないし」

浜名「無理だ。彼女が浮気だと騒ぎ立てる」

若田部「でも俺一人じゃ…」

と浜名のスマホが鳴る。

浜名、スマホを取り出す。

浜名「(スマホを見て)彼女からだ」

浜名、顔がにやける。

若田部「…」

○(戻って) 繁華街

若田部、歩いている。

若田部、立ち止まる。

若田部の視線の先に以下の看板。

「ガールズバー 60分 3000円」

若田部「…」

リスの被り物をした客引きのチヨロヘイ

(28)、若田部を見る。

チヨロヘイ「お兄さん! どう? いい子揃
ってるよ」

若田部、キョドる。

○エレベーターの中

若田部とチヨロヘイが立っている。

若田部、緊張している。

○カールズバー・入り口

チヨロヘイ、扉を開ける。

チヨロヘイ「どうぞ」

若田部、入っていく。

○同・店内

若田部、入ってくる。

若田部、店内を見渡して、

若田部「(呆気にとられる)」

テーブル席とカウンター席に麦わら帽子

を被った髭面のおっさんたち。

おっさんら、客と話している。

チヨロヘイ「ご指名はありますか？」

若田部「え…」

チヨロヘイ「追加料金 1500 円で好きな子を

ご指名できますよ」

若田部「(戸惑う) え、いや…ここってガールズバー…」

チヨロヘイ「(白々しく) あー！ ここはカー
ルズバーです」

若田部「え」

チヨロヘイ「ほら、カールおじさん！ 東日
本で買えなくなっちゃったお菓子の」

若田部「え…でも看板には…」

チヨロヘイ「もしかしたらシミですね！」

○カールズバーの看板

「カールズバー」の「カ」が黒いシミで
「ガ」になっている。

○(戻って) 店内

チヨロヘイ「ちなみに自分はカールおじさん
の森のお友達チヨロヘイです」

若田部「…」

チヨロヘイ「さ、さ。奥へどうぞ！」

若田部「いや…ガールバーだと思ったので…」

チヨロヘイ「せっかくここまで来たんですか
ら。騙されたと思って」

若田部「∴」

×

×

×

若田部、席についている。

チヨロヘイ、おしぼりと水をもってくる。

チヨロヘイ、去る。

コーンポタージュ(50)、やってくる。

コーンポタージュ、髭面で麦藁帽子に手

ぬぐい姿。

コーンポタージュ「(威勢よく)おう。坊や」

若田部「あ、はい(と頭を下げる)」

コーンポタージュ、若田部の前に座る。

コーンポタージュ「(若田部を見て)ここは初
めてか？」

若田部「あ、はい」

コーンポタージュ「どうした? いやにおと
なしいじゃねえか(と笑う)」

若田部「…」

コーンポタージュ「坊や、悩みがあるんだな。

そうだろう？」

若田部「え、あ…」

コーンポタージュ「とりあえず酒でも飲もう。

坊や、飲めるんだろ？」

若田部「いえ…」

コーンポタージュ「なんだ。下戸か？」

若田部「…」

コーンポタージュ「ここじゃ固いことは抜き

だ。よし。俺が酒の飲み方を教えてやる。

何でも好きな酒を頼んでみる」

若田部「…」

×

×

×

若田部、ビールをあおる。

若田部、コップをおく。

コーンポタージュ「坊や。いい飲みっぷりじ

やねえか。だがあんまり焦るなよ。酒は楽

しまなきやな」

若田部「（もう酔っている）はい」

コーンポタージュ「それで、坊やの悩みつてのを当ててやる。ずばり女がほしいんだらう？」

若田部「え」

コーンポタージュ、周りを見渡す。

客の男ら、キャストから接客を受けている。

コーンポタージュ「ここにくる客は大体そうさ。坊やと同じ悩みをもってやってくる」

若田部「…」

コーンポタージュ「坊や、知ってるか？ カールのCMが始まった当初主役を張ってたのはカール坊やって野郎で、カールおじさんは脇役の一人に過ぎなかった。それがどうだ。CMを見た視聴者の目にとまって今じゃ業界一の有名人だ」

若田部「…」

コーンポタージュ「さアこの話の教訓は何

だ？ 坊や、答えてみる」

若田部「(ぼそりと) …誰でも主役になれる」

コーンポタージュ「ところがどっこい、そう

じゃねえ。この話の教訓は…」

チヨロヘイ、やってくる。

チヨロヘイ「コーンポタージュさん、お時間

です」

コーンポタージュ、立ち上がる。

コーンポタージュ「坊や、俺はここまでだ。

もっとも坊やが指名さえしてくれりゃア

このまま話を続けられるのだが…」

×

×

×

若田部、コーンポタージュの話を熱心に

聞いている。

コーンポタージュ「仮にカールおじさんがハ

ナから主役だったらそこまで人気は出て

なかった。脇役のポジショニングを取った

からこそその人気だ」

若田部「はい」

コーンポタージュ「つまりモテるために大事なのはどう立ち回るかだ」

若田部「はい」

コーンポタージュ「モテたきや常に周囲にとって気になる存在であれってこった。それがあの話の教訓だ」

若田部「はい！（と声を張る）」

コーンポタージュ「（笑って）坊や、大分酔いが回ってきたか？」

と場内にマイクアナウンスが響く。

チヨロヘイの声「七番テーブルの坊やから松茸が入りました！」

コーンポタージュ、立ち上がる。

コーンポタージュ「坊や、ちよつと待ってな」

若田部「：？」

コーンポタージュ「松茸コールだよ。ここじゃ松茸がシャンパン代わりなんだ」

コーンポタージュ、七番テーブルへ向かう。

七番テーブルの客の前にキャストたちが
集まってくる。

テーブルの上に七輪と松茸が置かれる。

七番テーブルに座っているチーズ(49)、
七輪の上に松茸をのせる。

チーズ、立ち上がり、キャストらの真ん
中に立つ。

チヨロヘイの声「松茸コール！ いきます！」

チーズ、客へ向かってマイクで歌う。

チーズ「坊やは木を切る〜」

キャスト一同「ヘイヘイホー！ ヘイヘイホ

ー！」

チーズ「坊やはいいい子だね〜」

キャスト一同「ヘイヘイホー！ ヘイヘイホ

ー！」

野太い声が店内に響く。

キャストらの雄々しい姿に、

若田部「魅せられる！」

×

×

×

七番テーブルの客、チーズと共に松茸を食べている。

若田部の席に戻ってきたコーンポタージュ、ビールを飲む若田部へ、

コーンポタージュ「この店のナンバーワンだ
(とチーズの方を顎でしゃくる)」

若田部「(チーズを見る)」

コーンポタージュ「どうだ？ 奴さんから何を感ずる？」

若田部「…自信満々って感じですよ」

コーンポタージュ「うん。その点、坊やはちっと自信なさげだな(と笑う)」

若田部「…自分でもそう思います」

コーンポタージュ「坊や、もっと背筋をぴんとはれ」

若田部、背筋を伸ばす。

コーンポタージュ「それからだ。話をするときは相手の目を見る」

若田部、コーンポタージュの目を見る。

コーンポタージュのギラギラした視線に
若田部、まごつく。

コーンポタージュ「そして声は腹から出す。
女にモテる上での基本事項だぜ？ 坊や
のお父ちゃんはそんなことも教えてくれ
なかったのか」

若田部「(俯く)」

コーンポタージュ「どうした？」

若田部「∴あ、自分、父親いないので」

若田部、気まずさでビールをあおる。

コーンポタージュ「(微笑む)よし。酒のつい
でにタバコの吸い方も教えてやる」

コーンポタージュ、指をパチンと鳴らす。

チヨロヘイ、やってくる。

コーンポタージュ「タバコ一箱くれ」

チヨロヘイ、頷いて去る。

若田部、卓上メニューに目をやる。

メニューに以下の文字。

「タバコ一箱 2000円」

若田部「∴」

コーンポタージュ「(気づいて)心配するな。
釣り合いが取れるだけの勉強になること
は俺が保証する」

チヨロヘイ、やってくる。

チヨロヘイ「お待たせしました」

チヨロヘイ、タバコを置いて去る。

コーンポタージュ、タバコの封を開ける。

コーンポタージュ、タバコを一本取り出
して若田部に渡す。

若田部、タバコをくわえる。

コーンポタージュ、ライターの火を若田
部に差し出す。

が、タバコの火はつかない。

コーンポタージュ「息を吸うんだ」

若田部、息を吸う。

タバコ、火がつく。

若田部、きごちなくタバコを吸う。

コーンポタージュ「おう。いいじゃねえか。

坊やは見えてくれがいいからタバコが様に
なるわな」

若田部「(満更でもない)」

コーンポタージュ「もっとガンつけろ」

若田部「？」

コーンポタージュ「顔を凄ませるんだ」

若田部、睨む。

コーンポタージュ「いい面構えだ」

と、若田部、むせる。

コーンポタージュ「大丈夫か？」

若田部、むせながら目頭をおさえる。

コーンポタージュ「(怪訝そうに)？」

若田部の目から涙がこぼれる。

コーンポタージュ「おい、どうした？」

若田部「(涙声で)すみません：自分：どうし

たらモテるとか、そういうこと：何も教わ

ってこなかったんだなって：」

コーンポタージュ「これから俺がいくらでも

教えてやる」

若田部「(頷く)」

コーンポタージュ「さア坊や、涙を拭いて携

帯を出すんだ。LINEの交換だ」

○同・エレベーター前

若田部、名残惜しそうにエレベーターに乗る。

コインポタージュ、見送る。

コインポタージュ「坊や。女にモテるには考え方が大事だ」

若田部「はい」

コインポタージュ「カールの販売地域が残り半分しかないと思うか、まだ半分も残っていると思うか。どっちの考えの男に女は寄ってくる？（とにやりと笑う）」

若田部「（頷く）」

エレベーターのドア、閉まる。

○電車内

酔っ払った若田部、スマホを見ている。

コインポタージュから以下のLINE。

「風邪ひくなよ」

若田部、顔がニヤケる。

○カールズバー（深夜）

客のいなくなった店内。

コーンポタージュやチヨロヘイら、店内を掃除している。

スーツ姿のチーズ、やってくる。

チヨロヘイ（叫ぶ）チーズさん、お帰りです！

コーンポタージュらキャスト、チーズに頭をさげる。

キャスト一同「一日ご苦労様でした！」

チーズ「おう。お疲れ」

チーズ、去る。

チヨロヘイ「コーンポタージュへ）今日の客、

コンポタさんにゾッコンじゃないっすか」

コーンポタージュ「（ふっと笑う）」

チヨロヘイ、壁を見る。

壁にはキャストのパネル写真が飾られている。

ナンバーワンはチーズ。

ナンバーツーはカレー。

ナンバーズリーはうす。

チヨロヘイ「今月のナンバー発表が楽しみつすね」

チヨロヘイ、去る。

コーンポタージュ、挑むようにチーズの
写真を見上げる。

○若田部の家・居間（数日後・朝）

若田部、テーブルでパンを食べている。

母敏子（50）、台所で洗い物をしている。

若田部、立ち上がり、

若田部「（敏子へ）いってきます」

敏子「今日もバイト？」

若田部「うん」

若田部、廊下へ向かおうとすると、

敏子「あんた、タバコ吸ったの？」

若田部「：なんで？」

敏子「洗濯物。タバコの臭いしたから」

若田部「（面倒くさい）うるさいな」

敏子「私だっとうるさくいいたくはないけど、

よしなさいよ。お父さん、タバコで死んじ
やっただから」

若田部「∴」

○コンビニ・休憩室の前

若田部、ドアを開ける。

ゆら(18)、コンビニの制服姿で部屋から
出てくる。

ゆら「(若田部を見て)おはようございます」

若田部「(狼狽えて)あ、おはようございます」

○同・休憩室

若田部、スマホをいじっている。

コインポタージュから以下のLINE。

「ちゃんと飯くってるか？」

若田部、「はい」と返信する。

「今日会えるか？」

コインポタージュの雄々しい写真が添え
られている。

若田部、「はい」と返信する。

と、若田部、スマホを取り上げられる。

浜名が目の前に立っている。

浜名「さっきから何ニヤケてんだよ？」

若田部「あ」

浜名「(若田部のスマホを見て)もしかしてガ

ールズバーの女とLINEでも…」

浜名、コンポタージュの写真が目に入る。

浜名「…悪い」

若田部「(焦って)いや、違うって」

× × ×

着替えを終えた若田部と浜名。

浜名「そういうことか」

若田部「うん」

浜名「でも大丈夫か？ 変だぞ、その店」

若田部「(考え込んで)ねえ。ハマーはさ、父

親にどんなこと教わった？」

浜名「何だよ、いきなり」

若田部「いや、車の運転の仕方とか、ボートの操縦とか」

浜名「飛行機の操縦とか？」

若田部「いや、それは」

浜名「それがどうしたんだよ？」

若田部「俺さ、そういうの全然ないんだ」

若田部、浜名の目を見る。

若田部「今まで生きてきてさ、背筋の張り方

さえ知らなかったんだよ（と自嘲する）」

○道（夕）

若田部、歩いている。

若田部のスマホが鳴る。

若田部、スマホを見る。

コインポタージュから以下のLINE。

「店くる前に一緒に遊んでいかねえか」

○駅前

若田部、緊張した面もちで立っている。

私服のコインポタージュ、やってくる。

コインポタージュ「おう！ 坊や！」

若田部「（頭を下げる）」

コインポタージュ「元気にしてたか？」

若田部「はい」

コインポタージュ「坊や、最初に金の話を済ませちまおう。同伴料3000円だ」

若田部「∴」

若田部、財布を出す。

若田部、3000円をコインポタージュに渡す。

コインポタージュ「（金をポケットにしまい）なに。同伴なんか今だけだ。そのうちアフターに誘ってやる」

若田部「∴アフター？」

コインポタージュ「店じまいの後にキャストと客が遊ぶのをアフターってんだ。店は関係ねえから料金は一切発生しない。坊やと腹を割って話せるってわけだ」

○定食屋・中

コーンポタージュと若田部、入ってくる。

カウンターの奥に店の主人。

主人「らっしやい！」

コーンポタージュと若田部、カウンター
席に座る。

コーンポタージュ「(威勢よく)親父！ いつ
もの二人前くれ！」

主人「はいよ！」

店の娘、やってきて水をおく。

コーンポタージュ「お姉ちゃん。紹介するぜ。」

俺の息子」

若田部「(頭を下げる)」

コーンポタージュ「俺ア今コイツを一人前の
男にしてやってるんだ」

娘「コンポタさんには何人息子がいるんでし

ようね(とくすりと笑う)」

コーンポタージュ、若田部を見る。

コーンポタージュ「坊や、しゃきつと背筋を
のばせ」

若田部、背を伸ばす。

×

×

×

空になったステーキの大皿。

満腹の若田部とコインポタージュ。

コインポタージュ「お姉ちゃん！ 会計！」

娘、やってくる。

娘「はいよ。2800円」

若田部、慌てて財布を出す。

コインポタージュ「(制して) しまいな」

若田部「でも」

コインポタージュ「俺に出させろ」

コインポタージュ、若田部からもらった

3000円を出す。

○道

20代の女がスマホをいじっている。

コインポタージュ、女の様子を伺っている。
隣にいる若田部へ、

コーンポタージュ「みてろ。俺にかかりゃ
分で連絡先を手にする。勉強しとけ」

若田部「はい」

コーンポタージュ、女へと近づいていく。

若田部、息を呑んで見ている。

コーンポタージュと女、話している。

と強面の男が現れる。

強面の男、メンチを切ってコーンポター

ジュににじりよる。

コーンポタージュ、逃げる。

コーンポタージュ「坊や！ ずらかれ！」

○カールズバー・店内（夜）

若田部、煙草をふかしている。

コーンポタージュの脇にグリルドソーセ

ージ（52）が座っている。

コーンポタージュ「坊や。紹介する。ヘルプ

のグリルドソーセージだ」

グリルドソーセージ「坊や、よろしく」

×

×

×

若田部、コーンポタージュ、グリルドソーセージ、ビールを飲んでいる。

グリルドソーセージ「同伴中にナンパですか？」

コーンポタージュ「おう。あと一歩のところだった。なア坊や」

若田部「(困って笑う)」

コーンポタージュ「坊や、覚えときな。何もしなきゃ痛い目に遭うことはねえが、果実を手にすることもできねえんだぜ」

×

×

×

店内の一角に土俵がある。

壁に以下の張り紙。

「土俵 10分 2000円」

若田部とコーンポタージュ、土俵上で対峙している。

グリルドソーセージ、行司役をやっている。

コーンポタージュ、構える。

コーンポタージュ「坊や、構えろ」

若田部、構える。

コーンポタージュ「いいか。勝つことのできない男に女は寄ってこない」

若田部「∴」

コーンポタージュ「そのためには生きるか死ぬかの過酷な戦いは避けられねえ。犠牲を払うことだってあるだろう。だがその覚悟を持った者だけが、その先にある栄光を掴み取ることができる」

若田部「∴」

コーンポタージュ「∴坊や、俺についてくれるか？（不敵に笑う）」

若田部「（笑い返す）」

二人の視線がぶつかる。

グリルドソーセージ「ハツケヨーイ！ のこった！」

若田部、コインポタージュの胸へ飛びこ
んでゆく。

以下、カットバック

○カールズバー・入り口（翌日・夜）

若田部、チヨロヘイへ、

若田部「コインポタージュさんで」

○同・店内

若田部、コインポタージュの話を熱心に
聞いている。

コインポタージュ「強い男にならなきゃ、坊
やの中にある優しさも繊細さも、いずれ腐
ってしまう」

○同・店内

コインポタージュと若田部、土俵で相撲
を取っている。

コインポタージュ、若田部を投げ飛ばす。

若田部、倒れる。

コーンポタージュ「もう一回だ！」

○カールズバー・入り口（数日後・夜）

若田部「コーンポタージュさんで」

○同・店内

若田部、コーンポタージュから指の鳴らし方を習っている。

若田部、うまく鳴らない。

○コンビニ・休憩室（数日後・朝）

ゆら、入ってくる。

ゆら「おはようございます」

若田部、思い切ってゆらのもとにいく。

若田部「あ、加藤さん」

ゆら「…？」

若田部「あ、俺、若田部だけど」

ゆら「…？ はい」

若田部「あ、これまで全然話したことなかっ

たから」

ゆら「ほんとですね」

若田部「今後ともよろしく」

ゆら「よろしくお願ひします」

ゆら、バイトの支度を始める。

若田部、達成感で笑みがこぼれる。

○カールズバー・入り口（夜）

若田部「コンポタさんで」

○同・店内

若田部とコンポタージュ、土俵で相撲を取っている。

コンポタージュ、若田部を押し出す。

○駅前（数日後・夕）

若田部、立っている。

コンポタージュ、やってくる。

○道

コインポタージュ、若田部の歩く姿を見
つめている。

コインポタージュ「もっと肩で風を切って歩
け」

若田部、肩をグリグリ動かしながら歩く。

コインポタージュ、呆れて笑う。

○カールズバー・入り口（数日後・夜）

若田部「コンポタさんで」

○同・店内

若田部、コインポタージュ、席でタバコ
をふかしている。

コインポタージュ「坊や、もうじき今月のナ
ンバー入りが決まる」

若田部「はい」

コインポタージュ「俺にや息子が何人もいる
が、お前には一番期待してる」

若田部「頑張ります」

○コンビニ・店内（数日後）

ゆら、両手にゴミ袋を持っている。

若田部、やってくる。

若田部「加藤さん！」

ゆら「：？」

若田部「俺、手空いてるからやるよ」

若田部、ゴミ袋をゆらから受け取ると歩

き出す。

ゆら「（若田部の後ろ姿を見つめる）」

○カールズバー・入り口（数日後・夜）

若田部「オジキで」

○同・店内

若田部とコーンポタージュ、飲んでいる。

コーンポタージュ、ピリピリしている。

コーンポタージュ「後一押し！ 坊や、後一

押しなんだ！」

若田部「オジキ、俺、松茸、入れます」

コーンポタージュ「そうか。坊や、入れてく

れるか（と顔が緩む）」

○同・店内（翌日）

壁に飾られたキャストのパネル写真。

ナンバー∞にカレー。

ナンバー∞にチーズ。

そしてナンバー∞にはコーンポタージュ。

カットバック、おわり

○コンビニ・休憩室（翌日）

若田部、入ってくる。

若田部「（大声で）っあああああーーー
す！！！」

ゆら、若田部を見る。

ゆら「おはよ（と微笑む）」

若田部「加藤さん！ うっす！」

若田部、浜名の前に座る。

浜名「（若田部を見て）なあ。お前最近なんか
変わったよな」

若田部「あ？　変わってねえよ」

浜名「いやいや」

若田部、スマホをいじり出す。

浜名「もしかしてまだ例のおっさんと続いているのか？」

若田部、LINEに夢中。

コーンポタージュから以下のLINE。

「坊や。お祝いだ。今日はアフターで飲み

明かそう」

若田部、笑顔になる。

○カールズバー・店内（夕）

室内に緊迫した空気が漂っている。

ケロ太（カエルのキャラクター）のワッ

ペンがついた高級スーツを身にまとった

堀（40）、キャストらの前に立っている。

堀「グリルドソーセージが売り上げ金を持って飛んだ」

キャスト一同「…」

堀「警察には被害届を出したが、皆も協力し

て奴を捜し出してほしい」

キャスト一同「はい！」

堀「コーンポタージュ！」

コーンポタージュ「はい！」

堀「教育係はお前だったよな」

コーンポタージュ「大変申し訳ありません！

(と頭を下げる)」

堀「謝罪はいい。何が何でも金を取り返せ。

金が戻ってこないときはお前がケツ持ち

をしろ」

コーンポタージュ「…」

チーズ「(にやり)」

○同・同(夜)

若田部、タバコをふかしている。

コーンポタージュ、やってくる。

コーンポタージュ、若田部の前に座る。

コーンポタージュ「坊や、緊急事態だ」

若田部「…？」

コーンポタージュ「今晚のアフターは中止さ

せてもらうぜ」

若田部「中止？ オジキ、どういふことですか？ もしかして俺以外の客と…」

コーンポタージュ「そうじゃねえ。安心しな。

俺が目をかけてる息子は坊やだけだ」

若田部「ほっとする」

コーンポタージュ、冴えない顔で煙草に火をつける。

×

×

×

若田部、じつと考え込んでいる。

若田部「(コーンポタージュへ)オジキ！ ソ

イツ探すの、俺にも手伝わせてください！」

コーンポタージュ「バカいうな」

若田部「でも！」

コーンポタージュ「坊やには他に任せたいことがある」

若田部「(嬉しい)俺、オジキのためならどんなことでもやります」

コインポタージュ「万ーだ、奴が見つからなかったとなると俺ア奴の尻拭いをさせられる。するとどうなる？ 罰金の名の下に俺の売り上げの大半は没収だ」

若田部「…」

コインポタージュ「そしてナンバー入りは売り上げがすべて。つまり、このままナンバーを維持するためにはこれまで以上の握力があるんだ。わかるか？」

若田部「…金、ですか？」

若田部、表情が曇る。

コインポタージュ「坊や、そんな顔するな」

若田部「…」

コインポタージュ「俺だって坊やにこんな話をするのは辛えんだ」

若田部「…」

○繁華街

若田部、見上げている。

若田部の視線の先には消費者金融会社の

看板。

若田部「…」

○カールズバー・休憩室（深夜）

コーンポタージュ、スマホをいじっている。

画面には「坊や」 坊や 坊や 坊や
「…」と坊やたちの連絡先がずらりと並んでいる。

コーンポタージュ、坊やに電話をかける。

コーンポタージュ（相手が出る）おう。坊やか、久しぶりだな…ちつと聞きてえことがあるんだが、坊や、グリルドソーセージと懇意の仲だったよな。奴が今どこにいるか知ってるか？…そうか…」

コーンポタージュ、電話を切る。

コーンポタージュ「苛立つ」

コーンポタージュ、気を取り直して坊やに電話をかける。

○定食屋・店内（翌日・夕）

若田部、コーンポタージュ、カウンター席でステーキをがついている。

若田部、フォークをおく。

若田部「…オジキ、今日、松茸ぶっ込みます」
コーンポタージュ、最後の一切れを食べる。

コーンポタージュ、紙フキンで丁寧に口をふく。

コーンポタージュ「それでこそ俺の息子だ。

息子は親孝行しなくちやな」

コーンポタージュ、立ち上がる。

コーンポタージュ、出ていく。

若田部「（コーンポタージュの背中を見つめ）
…」

○カールズバー・店内（夜）

若田部とコーンポタージュ、飲んでいる。
テーブルの上に七輪がおかれている。

コーンポタージュ「坊や、もう一本、松茸ぶつ込んでくれ」

若田部「(困る)オジギ、もう勘弁してください」

コーンポタージュ「強気になれ。もう一本、いけるよな？」

若田部「これまでオジギのためにバイト代も貯金も全部ぶち込んで、キャッシングまでしてるんです」

コーンポタージュ「弱音は聞きたくない」

若田部「…」

コーンポタージュ「坊やは俺が負ける姿を見たいのか？」

若田部「…」

コーンポタージュ「俺がナンバー1から落つこちてもいいんだな？ そうなんだな」

若田部「そんなことは…」

コーンポタージュ「だったら四の五のいわずに今すぐ松茸をぶつ込め」

若田部「…」

○コンビニ・休憩室（翌日）

若田部、浜名、それぞれスマホをいじっている。

若田部のスマホにコーンポタージュから以下のLINE。

「今日も🍄ぶっ込んでくれ」

若田部、スマホを握る力が強くなる。

若田部、カッとなってロッカーを殴りつける。

浜名「（驚いて顔をあげる）え？」

若田部、出ていく。

若田部、乱暴にドアを閉める。

浜名「え？」

○グリルドソーセージのアパート・外観（深夜）

○同・グリルドソーセージの部屋の前

チョロヘイ、ドアノブにピッキング器具

を差し込んでカチャカチャしている。

コーンポタージュ、見張っている。

チヨロヘイ「開きました」

○同・グリルドソーセージの部屋

物で散乱した室内。

テーブルの上にはグリルドソーセージ味の
カールの袋。

コーンポタージュとチヨロヘイ、立っ
ている。

チヨロヘイ「(見渡して)もぬけの殻っすね」

コーンポタージュ「何か手がかりがないか探

せ」

コーンポタージュ、周囲を見渡す。

足下に一粒のカールが落ちている。

コーンポタージュ「…？」

コーンポタージュ、カールを拾う。

コーンポタージュ「(チヨロヘイへ)おい」

チヨロヘイ「…？ グリルドソーセージ味の

カールですか？」

コーンポタージュ、カールを鼻に当て、

コーンポタージュ「いや、匂いが違う」

チヨロヘイ「じゃあ、キャストの誰がかここにきたんですかね？」

コーンポタージュ、カールをかじる。

コーンポタージュ、よく味わう。

コーンポタージュ「この味は…」

○カールズバー・休憩室（翌日・夕）

チーズ、タバコをふかしている。

コーンポタージュ、目の前に座る。

チーズ「（見て）おう。コーンポタージュか」

チーズ、コーンポタージュにタバコを差

し出す。

チーズ「吸うか？」

コーンポタージュ「お構いなく」

チーズ「それで、グリルドソーセージは見つ

かったのか？」

コーンポタージュ「いえ」

チーズ「そうか。お前も大変だな」

コインポタージュ、おもむろにポケットに手を入れる。

コインポタージュ、握りしめたかじりかけのカールをチーズの前に放り投げる。

チーズ「(カールを見て) …」

コインポタージュ「…チーズさん、一つわかったんだが、あんた、グリルドソーセージが飛ぶ前に奴の部屋にいったんだろ？」

チーズ「…」

コインポタージュ「何を話した？」

チーズ、タバコの火を灰皿で消す。

チーズ「カールが売れなくなった理由をお前も知っているだろう」

コインポタージュ「…？」

チーズ「粉で手が汚れるからだよ。カールを食べながらスマホに触れりや当然画面は粉まみれだ。今の若者たちは粉が嫌なんだ」

コインポタージュ「何の話をしている。俺が聞いているのは…」

チーズ「(遮って)まア待て。世の中、男が弱

くなつたよ。男らしさって言葉が疎まれ、俺やお前のような人間はこんな薄暗がりの部屋の中でしか生きられない」

コインポタージュ「…」

チーズ「コインポタージュよ、この時代、俺たちの存在こそまさに粉のようだと思わないか？」

コインポタージュ「…何がいいたい」

チーズ「身を粉にして働くよりも、いつそ粉を落として生きる道もある。奴にはそう助言してやったまでだ」

チーズ、タバコを取り出し、火をつける。

コインポタージュ「(睨む)つまり、あんたなんだな。奴をそそのかしたは」

チーズ「…」

コインポタージュ「俺をナンバー」から引きずりおろすために店の金を持って飛ぶように奴に指示をした。そうだな？(と迫る)」

チーズ「それはお前の憶測にすぎない」

コインポタージュ「オーナーにチクればどう

かな」

チーズ「(嘲笑う)オーナーだってバカじゃない。仮にその憶測が事実だとしてもだ、そんなことは織り込み済みでオーナーはお前にケツをもたせてる」

コインポタージュ「…」

チーズ「しんどいよなア」

チーズ、タバコの煙をふかす。

チーズ「俺は毎日思うよ。勝負ってのはなんてしんどいんだろう」

コインポタージュ「(歯噛みする)」

○カールズバー・店内(夜)

若田部とコインポタージュ、飲んでいる。

テーブルの上には七輪がおかれている。

コインポタージュ「坊や、お前のお母ちゃんから金もらってこい」

若田部「え？」

コインポタージュ「ダメもとで頼んでみる。

それでダメなら力づくだ。ダンスの中にへ

ソクリが入ってるかもしれねえ」

若田部「…」

コーンポタージュ「それから、指輪やネックレスなんぞも全部かつさらってこい」

若田部「(あ然と)オジキ? 本気でいつてるんですか?」

コーンポタージュ「俺はいつだってマジよ」

若田部「…オジキ、それだけは勘弁してください」

さい(と頭をさげる)

コーンポタージュ「顔をあげろ」

若田部「(顔をあげる)」

コーンポタージュ「俺の目を見ろ。坊や、ミルクを与える他お前に何も教えてこなかったお母ちゃんと、歩き方から酒の飲み方まで一から教えてやった俺と、どっちが大事故か、よく考えろ」

若田部「…」

○若田部家・和室(深夜)

若田部、ダンスの引き出しを漁っている。

若田部、小さな巾着袋を見つける。

若田部、取り出して袋を開く。

中に指輪やイヤリングなどの貴金属が入っている。

若田部、居間を覗き込む。

敏子、ミシンの置かれたテーブルに座ったまま背中を丸めて眠っている。

若田部「(敏子を見て) …」

○繁華街（翌日・夜）

雨が降っている。

○ビルのエレベーター（夜）

若田部、小さな巾着袋を持っている。

若田部、巾着袋をポケットに押し込む。

○カールズバー・店内

若田部とコーンポタージュ、飲んでいる。

コーンポタージュ「昨日の件はどうなった？」

若田部「…」

若田部、ポケットに手を入れる。

若田部、巾着袋を出すのをためらっている。

若田部、ややあつてポケットから巾着袋を取り出してテーブルにおく。

コインポタージュ「(見て) 中身はなんだ？」

若田部、巾着袋を握りしめたまま開けようとしなない。

コインポタージュ「どうした？」

若田部「俺にはやっぱりできません！」

コインポタージュ「どういうことだ？」

若田部「…」

コインポタージュ「…つまり、俺よりもお母

ちゃんを選ぶんだな？」

若田部「(俯く) 一人前の男にしてやるってオ

ジキは俺にいましたよね？」

コインポタージュ「それがどうした？」

若田部「一人前の男ってどういうことです

か？」

コインポタージュ「…」

若田部「自分を育ててくれた母親を裏切ることは俺にはできません」

コーンポタージュ「…」

若田部「母親を守る。それがオジキのいう男らしさじゃないんですか？ 違うんですか？（と興奮する）」

コーンポタージュ「坊や、まア落ち着け」

コーンポタージュ、グラスに酒を注ぐ。

コーンポタージュ、若田部にグラスを差し出す。

コーンポタージュ「一人前の男ってのは、戦いに勝つことのできる男のことをいうんだ」

若田部「…」

コーンポタージュ「勝つことはおろか戦ってもない坊やが男らしさを語るのは100年早いわな（と笑う）」

若田部「じゃあ、勝つためには大切な人を傷つけてもいいんですか？（ふいに顔が歪む）オジキは…オジキは俺のことをどう思

ってるんですか？」

コーンポタージュ「どう思ってるだ？」

コーンポタージュ、突然笑い出す。

若田部「：おかしいですか？」

コーンポタージュ「そうか。それでさっきから坊やの機嫌が斜めだったのか」

若田部「：」

コーンポタージュ「坊や。その甘っちょろい考えが男らしくないんだ」

若田部「：」

コーンポタージュ「いいか。お手てを繋いで歩くような関係だろうと、一皮剥けばそこにあるのは戦いだ。坊や、周りを見てみる」

若田部、周囲を見る。

キャストと客が酒を楽しんでいる。

コーンポタージュ「もし今、ここに女が一人現れたらどうなると思う？ 仲良し子良しの宴は終わり、たちまち戦争がおっぱじまる。それが男って生き物なんだ。そしてそれは俺と坊やの関係においても例外

ではない」

若田部「…」

コーンポタージュ「坊やは俺がちよっと手を離したのが気に入らねえようだが、坊やを一人前の男に鍛えあげてやる上で俺は一度たりとも嘘を教えたことはねえぜ」

若田部「…」

若田部、立ち上がる。

若田部「…わかりました。父親面して甘い言葉で客を騙して金をむしり取る。それがオジキのいう男らしさなんですネ」

コーンポタージュ「(ぎろりと睨む) なんだと？」

若田部「そんなのは卑怯で男らしくない」

コーンポタージュ「…坊や、もういっぺんいってみろ」

若田部「男らしくないといってるんだ」

コーンポタージュ「(凄む) ようし！ 坊や！
アフターだ！」

○河原

激しい雨が降っている。

若田部、コインポタージュ、対峙している。

コインポタージュ、懐から分厚い財布を取り出す。

コインポタージュ、財布を地面に投げける。

コインポタージュ「坊やのブツも出しな。坊やのいう男らしさを見せてもらおうじゃねえか！」

若田部、怒りに任せて巾着袋を地面に叩きつける。

コインポタージュ「かかってこい！」

若田部、相撲の要領でコインポタージュへ突進する。

コインポタージュ、若田部の腹をグーで殴る。

若田部、その場に倒れる。

若田部、腹を押さえて喘いでいる。

コーンポタージュ「喧嘩のひとつもしたことがねえくせに何が母親を守るだ」

コーンポタージュ、巾着袋を拾おうとする。

若田部、コーンポタージュの足にしがみつく。

コーンポタージュ、足蹴にする。

○土手

浜名、彼女の瑠璃（20）と傘を差して歩いている。

瑠璃「（河原を見て）喧嘩じゃない？」

浜名「え」

浜名、河原を見る。

若田部とコーンポタージュが格闘している。

浜名「（呆然と）…俺のせいだ」

○河原

若田部、苦悶の表情で立っている。

コーンポタージュ、若田部を殴りつける。

若田部、倒れる。

コーンポタージュ「手前みてえに犬も食わね

え、戦う前から負けている人間の相手を誰

がしてやったと思ってるんだ！」

コーンポタージュ、巾着袋を拾おうとする。
る。

若田部、コーンポタージュの足にしがみ
つく。

コーンポタージュ「クドい！」

コーンポタージュ、若田部を足蹴にする。

若田部「(呻く)」

コーンポタージュ「男らしくない？ 利いた

ふうな口を叩くな！」

コーンポタージュ、さらに若田部を足蹴
にする。

若田部、のたうちまわる。

コーンポタージュ「一人じゃ何もできねえく
せにピーチクパーチク喚きやがって！」

若田部、悶絶している。

コーンポタージュ「手前の大好きな母ちゃんが襲われてみる。俺に頼めば何とかかなるとでも考えているのか？ 甘ったれるな！」

コーンポタージュ、巾着袋を拾う。

コーンポタージュ「自分の力だ！ 自分の力で解決するんだ！ その力の使い方を俺が教えてやってるんじゃないか！」

若田部、必死に立ち上がろうとしている。

コーンポタージュ「母ちゃん一人守れねえのは手前が勝つことを放棄してるからだ！」

コーンポタージュ、若田部に背を向けて歩き出す。

と、コーンポタージュ、後ろから衝撃を感じる。

若田部、喚きながらコーンポタージュに張り手をかましている。

コーンポタージュ「この野郎……」

二人、取っ組み合う。

若田部、激しいもみ合いの末、コーンポタージュのズボンのベルトをガッチリつ

かむ。

若田部、コインポタージュを投げ飛ばす。

コインポタージュ「！！」

コインポタージュ、地面に叩きつけられる。

若田部、地面に落ちた巾着袋を拾う。

若田部の荒い息づかいが響く。

コインポタージュ、倒れている。

コインポタージュの脇腹から血が流れている。

若田部「(気づいて)?!」

コインポタージュ「(喘ぐ)」

若田部、うろたえる。

若田部、思わずコインポタージュに一步步づく。

コインポタージュ「(怒鳴る)近寄るんじやね

え！」

若田部「∴」

コインポタージュ「俺の財布を持ってさっさと消えろ」

若田部、その場に立ち尽くす。

コーンポタージュ「：最後に教えてやる。負けた奴には決して同情するな」

若田部「：」

コーンポタージュ「坊やがもし本当に一人前の男になりたいと思っているならな」

○カールズバー・店内（一ヶ月後）

壁に貼られたパネル写真。

ナンバー1はチーズ。

ナンバー2はカレー。

ナンバー3はうす。

若田部、テーブル席でタバコを吸っている。

若田部、その姿がすっかり板についている。

コーンポタージュ、やってくる。

コーンポタージュ「坊やか。久しぶりだな」

若田部「（頭をさげる）」

コーンポタージュ、若田部の前に座る。

若田部「どうぞ」

若田部、タバコを差し出す。

コーンポタージュ、タバコを取る。

コーンポタージュ、タバコに火をつける。

コーンポタージュ「(煙を吐き出し)坊や。それで一体どういう見でここにいるんだ？」

若田部、タバコを灰皿でもみ消す。

若田部「：彼女ができました」

コーンポタージュ「：」

若田部「バイト先の女の子です」

コーンポタージュ「(すげなく)そうか。おめでとう」

若田部「色々あったけど、俺に彼女ができたのはやっぱりオジキのおかげだと思って」

コーンポタージュ「：」

若田部、指をパチンと鳴らす。

チヨロヘイ、やってくる。

若田部、チヨロヘイに耳打ちする。

チヨロヘイ「かしこまりました」

チヨロヘイ、去っていく。

コーンポタージュ「…？」

場内にマイクアナウンスが響く。

チヨロヘイの声「四番テーブルの坊やから松

茸が入りました！」

キャスト一同、若田部のテーブルに集まってくる。

コーンポタージュ「(若田部を睨む)俺のいたことを聞いてなかったのか。負けた奴には決して同情するなと」

若田部「別に同情じゃない」

コーンポタージュ「…？」

若田部「勝者からの施しです」

コーンポタージュ「…調子に乗るな」

若田部「(微笑む)」

コーンポタージュ、立ち上がる。

コーンポタージュ、マイクを手にして若

田部の前に立つ。

若田部、笑顔でコーンポタージュを見つめる。

やがて店内に松茸コールが響きわたって
：

（おわり）